

産業技術短期大学校の「見直し方針」

平成25年2月

商工労働観光部

1 現状

産業技術短期大学校は、平成5年4月1日に全国初の職業能力開発促進法に基づく県立短期大学校として山形市に開設された。平成22年度に開設以来初となる学科改編を行い、現在は、6学科、定員210名として運営している。

産業技術短期大学校庄内校は、平成9年4月1日に酒田市に開設された。平成22年度には一部学科においてカリキュラムの改編を行った。現在は、3学科、定員120名として運営している。

○ 学科及び定員の状況

【産業技術短期大学校】（山形市松栄二丁目2番1号）

訓練科	デジタルエンジニアリング	メカトロニクス	情報システム	知能電子システム	建築環境システム	産業技術専攻科	合計
1年生	10	20	20	30	20	10	110
2年生	10	20	20	30	20	—	100
合計	20	40	40	60	40	10	210

【産業技術短期大学校庄内校】（酒田市京田三丁目57番4号）

訓練科	制御機械	電子情報	国際経営	合計
1年生	20	20	20	60
2年生	20	20	20	60
合計	40	40	40	120

2 課題

両校は、開設以来、地域企業からの支援や高等学校との連携の下、有能な技術者を輩出し県内ものづくり産業の振興に貢献してきた。

しかし、今後、少子化の進行等により、学校運営を取り巻く環境は厳しさを増すことが予想され、一層の効率的な学校運営が求められる。このため、以下の3つの項目について早急に検討を進める必要がある。

- (1) 学科や定員のあり方
- (2) 総務事務の効率化
- (3) 山形大学工学部や鶴岡工業高等専門学校との連携

3 見直し方針等（役割や機能及び組織・運営形態の見直し、実施時期）

(1) 学科や定員のあり方について

【産業技術短期大学校】

産業技術短期大学校では、平成22年度に学科再編を行っており、平成23年度に学内の検討組織において検討し、改編後の初めての入校生が平成24年3月に卒業したため、この改編の効果を検証する必要があるとの方向性を出した。

このため、企業代表者や学識経験者、教育関係者等、外部有識者から構成される「学科編成等検討委員会」を平成24年10月に設置した。

検討の項目は、①教育や研究等の方向性について②育成する人材像について③学科及び定員のあり方について④企業や高校、山大・鶴高専をはじめとする高等教育機関、試験研究機関等との連携促進について等を設定する。

また、検討の期間は、卒業生を輩出してから最低でも3年程度は必要と考えており、平成23年度末に、学科改編後に入学した学生が初めて卒業したことから、平成24年度から平成26年度の3年間で検証等を行う。

【産業技術短期大学校庄内校】

産業技術短期大学校庄内校では、平成23年度に学内の検討組織において検討を進め、学生の入校、就職の状況、企業や高校との連携状況等について情報収集や分析を行い、現在の学科や定員が将来の少子化を見通した際に、地域企業の就職先としてのニーズや高等学校の進学先としてのニーズに、より沿ったものとなるようにすべきという見直しの方向性を確認し、今年度からの進め方や行程等について整理したところである。

今年度は、企業代表者や学識経験者、教育関係者等の外部有識者からなる「産業技術短期大学校庄内校あり方検討委員会」を7月に発足させ、2度の委員会を開催。企業アンケート、高校アンケートも併せて実施し、検討の結果、産業界のニーズと学生の希望に配慮した「教育内容のコース選択制」の導入及び地元企業在職者等を対象とした「リカレントコース」の設置による教育内容の充実を図ることとした。

「産業技術短期大学校庄内校あり方検討委員会」における見直し計画策定の後、カリキュラム内容等の検討、募集要項の制定、高校あての周知等の広報活動などを進め、平成26年度からの完全実施を目指す。

(2) 総務事務の効率化について

【産業技術短期大学校】

平成23年度に、産業技術短期大学校と山形職業能力開発専門校との間で総務事務の一元化など事務の効率化について検討を行ってきた。

すでに一括契約などにより効率化されている事務も含め、両校の間で効率化できる事務の項目や量等について、現場の状況を確認し整理した。

具体的には、総務事務にかかわるすべての業務を洗い出し、一元化によって削減される延べ日数を産短大と能開校、県庁の三者で協議を行い積み上げを行った。今年度はさらに細かく業務を見直し、能開校の校務として残すべきものや、一元化しても削減ならないものなどをチェックするなど、それぞれの担当者レベルで話し合いを行い積算を行った。

その結果、平成25年4月から、産業技術短期大学校と山形職業能力開発専門校両校の総務部門を産業技術短期大学校に集約する方向で検討を進める。

(3) 山形大学工学部や鶴岡工業高等専門学校との連携について

【産業技術短期大学校】 【産業技術短期大学校庄内校】

平成22年度に商工観光部が鶴岡工業高等専門学校と連携協定を締結しており、既に教員間での取組みを進めている。

両校では、平成23年度に学内の検討組織において現在の連携の状況を確認するとともに、今後の取組みの方向性について検討を行った。その結果、山形大学工学部や鶴岡工業高等専門学校との間で既に実施している学会での共同発表や研修会における連携等の取組みを先ずは推し進めていく。

併行して、それら取組みが教員間の個別取組みに留まらず、学校全体に広がるものとなるための新たな仕組みの構築を進める。